

# 防災担当者研修

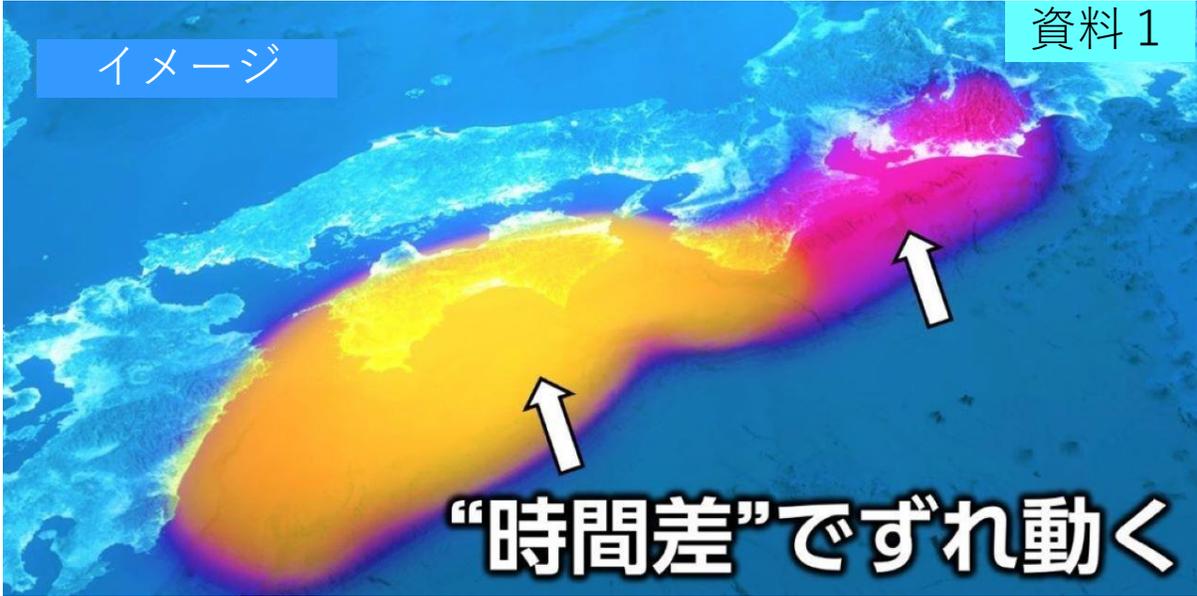
\* 南海トラフ巨大地震臨時情報発令時の措置 \*



2024. 8. 22

牟岐町危機管理監

# 南海トラフ「全割れ・半割れ」とは



全割れとは：南海トラフの想定震源域が一気にずれ動いた場合をいう。

半割れとは：例えば左上図のピンクで示した東側の震源域とオレンジで示した西側の震源域が、それぞれ・別々に・しかも時間を空けて・「ずれ動く場合」をいう。

発生年	地震名	種別	時間差	M j
1498. 9.20	明応地震	**	137年	8.2-8.4
1605. 2. 3	慶長地震	**	107年	不明
1707.10.28 13:45頃	宝永地震	全割れ	102年	8.4-8.9
1854.12.23 09:35頃	安政東海地震	半割れ	32時間	8.4
1854.12.24 16:32頃	安政南海地震	半割れ		8.4
1944.12. 7 13:36	昭和東南海地震	半割れ	2年	7.9
1946.12.21 4:19	昭和南海地震	半割れ		8.0

震度は、ある場所がどのくらい揺れたかを表す。

同じ地震でも震源から距離や地盤によって揺れの大きさは変わってくる。

※ 「まな板」と「豆腐」では地盤が異なるので揺れの大きさは全く違って当たり前  
ひとつの地震でも場所によって震度は異なる。

マグニチュードは、地震そのものの大きさ、つまり地震の規模（エネルギー）を表す。  
ひとつの地震に対してひとつの数字しかない。

電球そのものの明るさがマグニチュードの大きさだとすると、電球そのものの明るさは変わらないが、近くにいと明るく、離れると暗く感じる。

また、光力が強いとより明るく遠くまで見える。弱いと近くしか見えない。逆に、マグニチュードが大きいと、より遠くまで影響がある。だから「地震の規模を示す」と言っている。

マグニチュード1とは、200万ジュール、これは、1台約1.6tの自家用車125台を一度に1m持ち上げるエネルギー（力の単位1ジュール：単1乾電池（約100g）を1m持ち上げるエネルギーに相当する）

マグニチュードが1.0大きいと約32倍、2.0大きいと約1000倍

## マグニチュード1を1としたときのエネルギー比

M	エネルギー比	備考
1	1	一倍
2	31.6	
3	1,000	千倍
4	31,623	
5	1,000,000	百万倍
6	31,622,777	
7	1,000,000,000	十億倍
8	31,622,776,602	
9	1,000,000,000,000	一兆倍

$$\log_{10}E = 4.8 + 1.5M$$

# 「南海トラフ地震臨時情報」発表までの流れ

現象発生  
(観測した異常な現象)

南海トラフ想定震源域またはその周辺でM6.8以上の地震が発生

南海トラフ想定震源域のプレート境界面で、通常とは異なる「ゆっくりとしたすべり (スロースリップ)」が発生した可能性

5～30分後

気象庁が「南海トラフ地震臨時情報 (調査中)」を発表

配備基準：牟岐町災害対策準備本部開設

1～2時間後

有識者からなる「南海地震に関する評価検討会」を開催し、発生した現象を評価

プレート境界のM8以上の地震 (半割れのケース)

M7以上の地震 (一部半割れのケース)

スロースリップ

左の要件を満たさない場合

2時間後 (最短)

臨時情報 (巨大地震警戒)

臨時情報 (巨大地震注意)

臨時情報 (調査終了)

配備基準：牟岐町災害対策警戒本部または災害対策本部開設

# 「南海トラフ地震臨時情報」が発表されたら

**臨時情報  
(巨大地震警戒)**



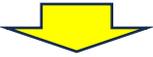
**少なくとも1週間**  
津波避難が間に合わない地域・住民は、  
**事前避難**  
その後、1週間は自主避難も含め日頃の備えを再構築

**臨時情報  
(巨大地震注意)**



**最も警戒する期間は1週間**  
(自主避難を含め)地震への備え(家具の固定状況、避難場所や避難経路、家族との安否確認方法、食料や水、常備薬、生活必需品など)を再確認し、  
**物・心ともに避難に備える**

**臨時情報  
(調査終了)**



最も警戒すべき期間は「すべり」が収まったと評価されるまで  
**今後地震の発生に注意しつつ  
普段の生活に戻る**

**備えよ常に!**

1週間が経過しても地震発生の可能性がなくなったわけではない!  
食料は?、水は?、着替えは?、どこに避難しようか?、1週間分で足りるやろか? 事前に想定

**臨時情報が発表されたときには、すでに地震が発生している  
命を守る準備・行動が最優先**

# 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発令された場合の牟岐町の対応

## 牟岐町の事前避難対象地域

区 分	対 象 地 域
住民事前避難対象地域	指定地域なし
高齢者等事前避難対象地域（23/29）	平野、川又、関、川長、天神前、清水、中の島、本町、上の町、杉王、山田、大谷、西の東、西の中、西の西、東の東、東の中、同倫、東の西、古牟岐、灘、内妻、出羽島
<b>事前避難所</b> （ ）内は想定収容人数 ※1人/4㎡	西又コミュニティーセンター（12）、笹見コミュニティーセンター（12）、平野コミュニティーセンター（12）、小松コミュニティーセンター（8）、喜来多目的集会所（16）、橘コミュニティーセンター（12）、牟岐中学校体育館（169）、 <b>町民体育館（305）</b> 、町民センター（61）、牟岐町海の総合文化センター（99）、灘コミュニティーセンター（20）、内妻コミュニティーセンター（12）、牟岐小学校（627）、牟岐中学校（746）、徳島県立少年自然の家（537）

- 臨時情報（巨大地震警戒）の発表後、防災無線等により「高齢者等避難」を呼びかけます。
- 事前避難については、**親類・知人宅等への避難を促すことを基本**とし、それが難しい住民が後発地震に備えて一定期間避難生活をする避難所（**事前避難所**）の確保を行います。
- 1週間を基本とした避難に必要なものについては、各自で準備し、生活の中で不足するものは各自が購入することを基本としています。
- 避難所の運営は避難者が自ら行うことを基本とします。なお、町の備蓄品は後発地震が発生した際に使用するものです。
- 南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界におけるM8.0以上の地震の発生から1週間、後発地震に対して警戒する措置をとります。また、当該期間が経過した後1週間は、後発地震に対して注意する措置をとります。

# テレビのニュース速報などで「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒・注意）」を知ったとき・・・

## 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）発表時

### サイレン音(短)吹鳴3回

こちらは防災牟岐町役場です。

〇時〇〇分、南海トラフ臨時情報「巨大地震警戒」の発表を受け、牟岐町は「高齢者等避難」を発令しました。

津波災害警戒区域内にお住いの高齢者や障害のある方、避難に時間のかかる方、支援者の方などは、最寄りの避難場所や避難所、安全な親戚・知人宅などに速やかに避難してください。

避難所は、町民体育館に開設します。

繰り返しお知らせします。

〇時〇〇分、南海トラフ臨時情報「巨大地震警戒」の発表を受け、牟岐町は「高齢者等避難」を発令しました。

津波災害警戒区域内にお住いの高齢者や障害のある方、避難に時間のかかる方、支援者の方などは、最寄りの避難場所や避難所、安全な親戚・知人宅などに速やかに避難してください。

避難所は、町民体育館に開設します。

## 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）発表時

こちらは防災牟岐町役場です。

〇時〇〇分、南海トラフ臨時情報「巨大地震注意」が発表されました。今後、大きな地震が発生する可能性があります。

町民の皆様は、家具の固定状況、避難場所や避難経路、家族との安否確認方法、少なくとも1週間分の食料や水、常備薬、生活必需品など、地震への備えを再確認して、物心ともに避難に備えてください。

繰り返しお知らせします。

〇時〇〇分、南海トラフ臨時情報「巨大地震注意」が発表されました。今後、大きな地震が発生する可能性があります。

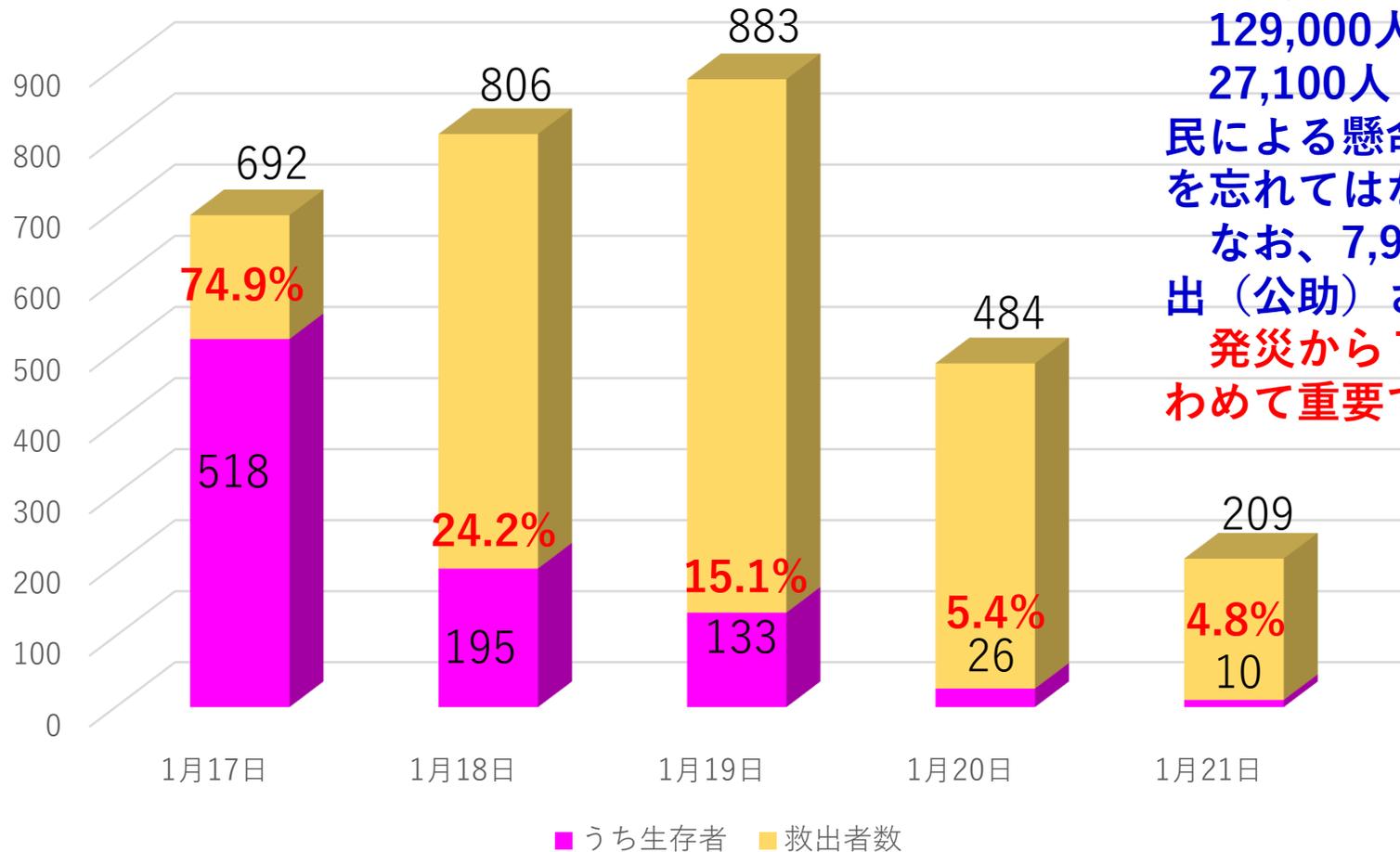
町民の皆様は、家具の固定状況、避難場所や避難経路、家族との安否確認方法、少なくとも1週間分の食料や水、常備薬、生活必需品など、地震への備えを再確認して、物心ともに避難に備えてください。

# 早い救出活動が命をつなぐ「72時間の壁」と事前避難のすすめ

## 阪神・淡路大震災における救出者中の生存者の割合の推移（5日間）

※ グラフは消防による救助活動の数字

赤色の数字は生存率を示す。



164,000人が瞬間的に倒壊家屋の中にあり、129,000人（79%）が自力で脱出（自助）27,100人（16%）が、発災直後に近隣住民による懸命な救出活動（共助）によることを忘れてはならない。

なお、7,900人（5%）が公的機関により救出（公助）された。

発災から72時間が人命救助において、きわめて重要である。

1995.1.17  
05:46 発災

# 災害対応の主要フェーズ

PHASE (主な結節)	協力・連携して対処しなければならないこと		
	10時間 ▼	100時間 ▼	1000時間 ▼
失見当 (発災～ 10時間)	脱出・克服 (1分1秒でも早く)		
命を守る (発災～ 100時間)	安否確認の実施、初期消火活動・救助・救出活動・二次被害防止策を実施		
人々の暮らしを繋ぐ (発災～1000時間)	避難所開設・運営、ライフラインの復旧、道路啓開、要配慮者支援、在宅避難者支援		
人と地域の再建・復興 (1000時間～)	復興まちづくり 地域振興		

※ 失見当：元々は、精神医学用語であるが、災害時においては「震災の衝撃から強いストレスを受けて、自分の身の回りで一体何が起きているのかを客観的に判断することが難しくなり、視野が狭くなってしまいう状態」のことをいう。

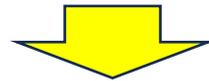
# Question

あなたは、ある施設で2か月前から勤務しています。  
ちょうど、1階の集会室で入所者10名と一緒に折り鶴を作っていたところ、突然**非常ベル**が鳴りました。あなたは  
どうしますか？

- ① 誤作動や点検、あるいは悪戯だと思って作業を続行した。
- ② 不安はあったが、煙が出ている様子はないし、他の職員も騒いでなから、取り敢えず大丈夫だと思いつつ注意しながら作業を続けた。
- ③ 入所者を連れて一目散に安全な場所（施設外）へ避難した。

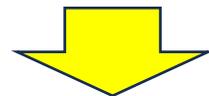
「正常性の偏見」 normalcy bias が避難行動に障害

- \* 震災など、予期しない事態に遭遇しても「どうせ大したことない (ないはず) …」
- \* 震災が起こっても「自分は (だけは) 大丈夫だろう (なはず)」
- \* 震災に注意を「どうせ起こらない (と思う)、それみろ起こらなかった」



と、何の根拠もない思い込みに縛られて事態を楽観視してしまう

- \* 事態を楽観視する情報を受入れ、悲観的な情報は排除しようとする傾向



この心理は、危険を無視することで心的バランスを保とうとする  
一種の自我防衛機能の働きである

では、どうすればよいの？

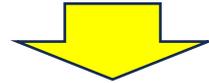


防災教育や講話、避難訓練で克服するしかない！！！！

## (避難など) 住民行動の課題 ②

### 「同調性の偏見」 mirroring が避難行動に障害

\* 震災など、予期しない事態に遭遇したとき、無意識に他人と同じ行動をとってしまう心の働き（誰も逃げていないから大丈夫だろう）



と、**周囲**の人の行動に合わせてしまい、本来であれば一目散に逃げるべき状況に置かれていても・・・**周囲と同じく逃げない選択**をする



この心理は、日常生活では「**協調性**」に繋がるが、災害発生時には**周囲の様子を伺っているうちに「逃げ遅れ」**てしまう

では、どうすればよいの？



**避難訓練や防災講話で判断力を醸成するのがベスト！！**

Q：作業中、突然非常ベルが鳴りました。あなたはどうしますか？

- ① 一時中断したが、誤作動だと思って作業を続行した  
「非常ベル＝誤作動、点検、悪戯」という過去の経験よる先入観から、自分にとって危険であると認識できない**正常性の偏見（正常性バイアス）**が働いた事案
- ② 不安はあったが、煙が出ている様子はないし、他の職員も騒いでないから、取り敢えず大丈夫だと思いつつ注意しながら作業を続けた。  
「ベルが鳴る＝火事＝煙が出る＝周囲が騒ぐ」という固定観念から、火事以外の危険の可能性を認識できない正常性の偏見と、他の職員も騒いでないから大丈夫という**同調性の偏見（同調性バイアス）**が重なった事案
- ③ 入所者を連れて一目散に安全な場所（施設外）へ避難した。  
先入観や固定観念、何の偏見もない純粹な「命を守る」行動